

Confidante (コンフィダンテ) 開発コンセプト

社会的背景

近年、犬の住環境（注1）の変化や品種改良などによって、乾燥肌や敏感肌、あるいはそれ以上に重篤な皮膚疾患になる犬が増加している。

また、同時に住環境や食生活などの改善によって犬の寿命が延び、人と同じ様に老後の問題も発生している。そして、人と同じように「寿命」から「健康寿命」（注2）が重要視され始めている。

すなわち、人と一緒に生活するようになった犬にとって「全く新しい視点での健康管理」を模索する必要性が増加していると言える（犬も「未病」について配慮するべきではないだろうか）。

犬の健康寿命について、いくつかのアプローチが考えられるが、その一つとして「人と同じようなスキンケア（注3）」が考えられている。

もし、人と同じように頻度良く洗浄して「肌の清潔」と「健康状態（匂い）」を改善し、なおかつ犬特有の「乾燥し易さ」を解決できるスキンケア用品が出来たら解決の一つになるのではないだろうか。

そして、既存のシャンプーとリンスはどんなに高価な物でも「雑品（注4）」なので使用成分が不明瞭であるし、その原料はコストの関係から品質の低い原料が使われている事が多い。

それは、頻繁にグルーミングをする犬（人の数十分の一しかない肝臓）にとって、少なからぬ負担である事は容易に理解できる。

まして、肝臓は痛みなどを自覚しにくい上に、犬は飼い主の前では苦痛を我慢する傾向が強いので、飼い主は気付かずに見逃しがちなケアポイントの一つである。

開発目標

開発目標はシンプルで、

- ① 犬の肌に最適な洗浄剤を設計する
 - ② 舐めても安全な成分だけを使用する
- である。

目標は簡潔であるが難易度が高く、とても多くの開発期間を費やした（注5）。

そして、具体的な課題と解決を以下の様に整理した。

まず、犬の肌と皮脂にとって最適な洗浄剤として

- ・ 犬の肌は弱アルカリである→高級脂肪酸で作られた石鹼シャンプー（カリ石鹼）が最適である
- ・ 犬の皮脂は脂性が高い（ロウに近い）→高い洗浄性と細胞間脂質を傷めない性能を両立させる
- ・ 洗い落とされた皮脂の回復に時間が掛かる→洗浄後、直ちにヘアオイルで油分を補い乾燥を防ぐ

また、安全性については

- ・ 口に入っても安全な原料を厳選する→無農薬・オーガニック・同じ原料でも高品質な物を採用
- ・ 犬のシャンプー性能に不要な、保存性や見栄えのための添加物などは一切使用しない
- ・ 犬にとって毒性が危惧される（怪しい、不明瞭な物を含む）原料を使用しない

★開発段階において、原価は考慮しない

製品の特長

最大の特徴は、高い安全性が約束された「化粧品（注6）」として製品化した事である。「化粧品」は人の肌に触れる事が前提であるため、その安全性が厳しく定められている。そして全成分表示が義務付けられているので、それだけでも安全性が明確と言える。その上、本製品は石鹼の主原料である油脂の50%が国産（伊豆諸島の利島産）のツバキ油（無農薬、オーガニック認定品）で、40%が（オーガニック認定）ヒマワリ種子油（計90%）である。それらを、油脂の特徴を損なわない様にコールドプロセスでカリ石鹼に作り上げた（注7）。なお、使用原料が犬にとって安全であるかを予め精査した事は言うまでもない。また、原料品質の厳選と高度な製造技術を駆使する事で、防腐剤や酸化防止剤など、本来の製品性能に関係ない成分を一切使用せずに作っている。そして通常では考えられない事だが、水や水酸化カリウムなどについて、原料としては最高品質とされている医薬品原料と同等の原料をできる限り採用した。この様に原料の選定に一切妥協しない事で、犬にも安全な品質を実現した。次に洗浄後のスキンケアとして、ヘアオイルを開発した。通常ならばリンス或いはコンディショナーがセットになっているが、これらは合成界面活性剤が大量に含まれていて、犬の肌や被毛に残留する事が好ましくない事は明白である。今回のヘアオイルは、犬の皮脂成分を解析し、最適な配合を実現している所以、シャンプー直後でも「しっとりとした肌」、「なめらかな毛並みと艶」を両立している。そして、香料の最高峰とされ、犬へのアロマ効果も研究されている「ダマスクローズ精油」だけで着香している所以、高貴で力強く、奥行きのあるふくよかな香りを身に纏う事ができる。総じて、人よりも犬の方が、「高品質なスキンケア用品を求めていた」と分かった次第である。

使用上の注意点

既存製品にはない性能を実現したために、いくつかの大きな注意が必要である。その一つが「使い方」で、「一度の使用量がとても多い」事である。これは自宅でシャンプーする際の使い易さを最優先に考えてシャンプーを「希釈タイプ」としたため、一般的なシャンプーやリンスの使用量と比べると一度に使う量はかなり多くなる。実は石鹼量は多くないのだが、しっかりと説明と、慣れるまでの時間が必要である。もう一つが、「長期保存性」である。保存料などを一切使用していないので、どうしても保存期間には限界がある。通常の使用環境と使用期間であれば問題ないが、長期保存をさけるために今回は大容量品の製品化を検討しない。大型犬にとって本製品量は少なく感じる所以、今回は中・小型犬を対象とした。ただし、内容量が少ないだけなので大型犬にも問題なく使用できる。そして、「高価格（しかも高原価率）」である事も大きな問題である。開発の際に原価を考慮しなかった結果、希少で高価な国産ツバキ油を主原料にするなど、原価が極めて高くなってしまった。これらの特徴と欠点から、ユーザーは限定されるのではないかと考えている。理想的には獣医やトリマーなど、プロフェッショナルな方々にご使用頂きたい製品である。

注1：「犬の住環境」大昔からつい最近まで屋外で生活し、その環境に適応するために脂性の高い皮脂を分泌していると考えられている。そして近年急速に室内生活へ移行しているが、最近の室内は乾燥度が高く、皮膚が薄い（人の約1／5の厚さ）犬にとっては過酷な環境とも言える。また、屋外（散歩など）でも道路のアスファルト化による空気の乾燥が進んでいる。

注2：「犬の寿命」一説では近年で2倍～3倍まで延びたとする報告もある。

住環境、食生活、医療技術の進歩や飼い主の意識が高まった事などの結果だと考えられている
「健康寿命」とは健康で生活できる年齢で、生活の満足度を示す重要な指針である。

注3：「清潔なスキンケア」人に例えると、（屋外生活の）原始時代から現在の室内での生活環境へ急激に変わったとも考えられる。そして、これからは新しい環境に即した生活スタイルが必要だと考えられている。

但し、何を、そしてどの程度、どんなふうに変えれば良いのか、については明確な答えがない状況である。

答えの一つとして、人と同じように頻度高く洗浄して、肌を清潔に保つ事で皮膚疾患を未然に防ぐ事が望まれている。

その論拠として、皮膚疾患の治療は本来、被毛を剃って、毎日のように洗浄と薬品の塗布するのだが、洗浄しても（洗浄剤によって）疾患が悪化し、洗浄を控えても疾患が改善されないジレンマの状態である。

もし、肌を傷めない洗浄剤があれば、日常的に使う事で健康な肌を保てる事も可能である。

そのため、犬の肌を志向したスキンケア製品が望まれているが、これまでは十分な性能を有した製品が供給されていない。

注4：「雑品」洗濯洗剤や食器用洗剤などを管理する分類である。人体に直接着ける事を前提としていないので、「安全性」は化粧品などと比べてはるかに劣る。

また実際に、犬用シャンプーやリンスの使用原料と上記のような強力な洗浄剤の成分を比べると同じ物が使われている事も多い。当然原料の品質もそれと同等である。

そして、全成分表示の義務がないので、本当に使われている物は分からないままである。

（「全成分表示」と書きながら全成分表示しなくても罰則されない）

注5：「犬の肌と皮脂成分」人と犬を比較すると角質層の厚さが人の1／5程度であったり、洗浄などで皮脂成分が奪われた場合、人は約4時間で元通りになるが、犬は72時間かかると言われている。

また、原料の安全性について、人とは異なる注意が必要である事は分かっていたが、安全性検証データがとても少なく、また犬の品種改良などによって安全と判断するのがとても困難であった。怪しい物を排除するととても限られた原料しか使用できないが、その中で開発を進めた。

注6：「化粧品」法律の改正などによって簡略化の傾向であるが、それでも原料、製造工場の許認可、製造工程の提出、製品検査、安全性の保障体制など、とても多くの項目が厳密に定められている。

仮に同じ物を作ったとしても「雑品」とは比較にならないぐらい製造原価が上昇する。

一例として、「化粧品」は菌検査（菌が混入しているかどうかの検査）を必ずしなければならないが、「雑品」は不要である。

注7：「コールドプロセスのカリ石鹼」とても難易度が高く、且つコストの掛かる製造方法とされており、現在日本国内では弊社以外で製造されていない。